

放送視聴票 第 10 回 (bijyutu202519 + bijyutu202520)

■ bijyutu202519 : アートと SDGs

【SDGs とは】

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015 年に国連サミットで採択された 2030 年までの 17 の国際目標です。環境、貧困、ジェンダー、教育など、世界が直面する問題に包括的に取り組む指針として、193 か国が合意しました。

【アートの役割】

アーティストたちは言葉ではなく「作品」を通じて SDGs にアプローチしています。例えばユン・ソクナムさんの作品は「ジェンダー平等（目標 5）」に関連し、伊東豊雄さんが被災地に建てた「みんなの家」は「住み続けられるまちづくり（目標 11）」に通じています。

【淀川テクニックの挑戦】

柴田英昭さん（淀川テクニック）は、海岸で拾い集めたゴミで動物の彫刻作品を制作。「北九州のドードー」「北九州のフクロオオカミ」などの作品は、地域の人々との協働で作られ、「つくる責任つかう責任（目標 12）」や「海・陸の豊かさを守る（目標 14・15）」といった SDGs に深く関連しています。

【アートが与える気づき】

アートは人の感性に訴え、理屈を超えた「気づき」を促します。エリアソンの「アイス・ウォッチ」のように、体験を通じて環境の変化を実感させることで、人々の意識と行動を変えていく力を持っています。

■ bijyutu202520 : これからのアート

【社会を変えるアート】

「ファベラ・ペインティング」は、ブラジルの貧困地域でアーティストと住民が共に建物を塗り替えるプロジェクト。

外壁に色を加えることで、地域のイメージや治安、衛生状態が改善され、観光客も増加しました。こうした活動は「ソーシャリー・エンゲイジド・アート（SEA）」と呼ばれ、社会と深く関わるアートの形です。

【SEA の広がり】

SEA はパブリック・アートや地域アートプロジェクトの理念を受け継ぎ、「地域とつながる」「住民と一緒につくる」「社会課題に向き合う」といった特長を持っています。単に作品を展示するのではなく、アートを通して人々の意識を変えることを目的としています。

【アートの未来】

アートは常に変化し、時代や社会のニーズに応じて進化しています。「アートって何？」という問いに対して、正解はありません。自分なりの視点を持ち、「自分にとってアートとは何か」を考えることが、これからの表現にとって大切な姿勢です。